

令和 2 年 度

都 建 第 74 号

# 市道上後亟下一線宮川32号橋補修工事

## 工事実施設計書

小 矢 部 市

# 設 計 書

小矢部市

水島

地内

## 市道上後亟下一線宮川32号橋補修工事

設計額 ￥

第 7 4 号	工事	施工延長	L	=	13.4 m				
		幅員	W	=	4 m				
	大要	ひび割れ補修工				表面含浸工	A	=	94 m2
		充填工法(有機系)	L	=	32.7 m	足場工	N	=	1 式
		断面修復工							
		左官工法	V	=	0.06 m3				

## 特記仕様書

工事名：市道上後巫下一線宮川 32 号橋補修工事

### 第1条 一般

この特記仕様書は、「土木工事共通仕様書（富山県土木部）令和 元 年 10 月」によるものとし、第 1 編共通編 1-1-2 第 6 項に基づき、本工事に必要な事項について定めるものとする。

本工事の施工にあたっては、共通仕様書及び特記仕様書の他、これに付随する関係基準書等に基づいて適正に施工すること。

### 第2条 現場代理人の工事現場における常駐を要しない機関

1 次のいずれかに該当し、かつ、発注者との連絡体制が確保されると認められた場合には、工事現場における常駐を要しない期間として取り扱うものとする。

- ① 契約締結後、現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間
- ② 工事の全部の施工を一時中止している期間
- ③ 橋梁、ポンプ、ゲート、エレベーター等の工場製作を含む工事であって工場製作のみが行われる期間

2 前項の期間を確認する必要がある場合は、書面によることとする。

### 第3条 工事材料の確認

下記の主要材料については、監督員の段階確認を受けて使用するものとする。

確認対象材料 補修材

### 第4条 建設リサイクル法の対象工事

1 本工事は、「建設工事に係る資源の再資源化に関する法律」（以下「建設リサイクル法」という。）の対象工事であり、特定建設資材について分別解体等及び再資源化等を実施するものとする。

2 請負者は建設リサイクル法第 12 条に基づき、施工計画書に以下の内容を明記し、監督員に説明するものとする。

- ・解体工事である場合は、解体する建築物等の構造
- ・建築工事等である場合は、使用する特定建設資材の種類
- ・工事着手の時期及び工程の概要
- ・分別解体等の計画
- ・解体工事である場合は、解体する建築物等における建築資材量の見込み

- 3 本工事における特定建設資材（コンクリート、鉄及びコンクリートからなる建設資材、アスファルト・コンクリート）の分別解体等・再資源化については、以下の積算条件を設定しているが、工事請負契約書「6 解体工事に要する費用等」に定める事項は契約締結時に発注者と請負者の間で確認されるものであるため、発注者が積算上条件明示した以下の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。

ただし、工事発注後に明らかになった事情により、予定した条件によりがたい場合は監督員と協議するものとする

(1) 分別解体等の方法

工程ごとの作業内容及び解体方法	工程	作業内容	分別解体等の方法 (解体工事のみ)
	仮設	仮設工事 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input checked="" type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	土工	土工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	基礎	基礎工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	本体構造	本体構造の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	本体付属品	本体付属品の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	その他	その他の工事 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (既設構造物撤去)	<input type="checkbox"/> 手作業 <input checked="" type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用

(2) 再資源化等をする特定建設資材廃棄物の種類及び再資源化施設の場所

特定建設資材廃棄物の種類	処理量
コンクリート塊	0.1 m3
アスファルト塊	m3
建設発生木材	m3

※上記(2)については積算上の明示条件であり、再資源化施設を特定するものではない。なお、請負者の提示する施設と異なる場合においても、設計変更の対象としない。ただし、施設の受け入れが困難な場合等、請負者の責によるものでない事項については、この限りではない。

4 請負者は、特定建設資材の分別解体等・再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法 18 条に基づき、以下の事項を書面に記載し、監督員に報告する。なお、書面は、「建設リサイクルガイドライン（富山県土木部）平成 14 年 6 月」に定めた様式 1「再生資源利用計画書（実施書）」及び様式 2「再生資源利用促進計画書（実施書）」に兼ねるものとする。

- ・再資源化が完了した年月日
- ・再資源化を行った施設の名称及び所在地
- ・再資源化に要した費用

5 請負者は、再資源化施設において適正に処分されていることが確認できる書類（マニフェスト）を監督員に提示するとともに、運搬・処理を委託する場合は、産業廃棄物処理業者との委託契約書に提示するものとする。

#### 第5条 工程関係

非出水期（6月から9月）の間は着手できないことを留意すること。

#### 第6条 安全管理

工事期間中は、安全管理要員等を配置し、工事区域内全般の巡視、点検、連絡調整等を行い安全確保に努めなければならない。

#### 第7条 過積載防止対策

道路交通法及び道路法を遵守するとともに、過積載防止対策に努める。

#### 第8条 地場産品の優先使用

本工事に使用する資材等は、品質が水準以上であり、かつ価格が適正である場合には、県内地産品を優先使用するものとする。

#### 第9条 下請関係の適正化

本工事を下請に付す場合は、「施工体制の適正化及び一括下請負の禁止の徹底等について」を遵守すること。

#### 第10条 社内検査の実施

請負者は、工事の途中段階及び完成時において、発注者の検査前に社内検査を実施するものとし、時期・内容等について施工計画書に記載すること。また、実施結果について監督員に提示するものとする。

#### 第11条 公害防止

建設機械の搬入・搬出及び現場作業による土砂の流出等により周辺に影響を及ぼした場合は、直ちに現状に回復すること。また、本工事により周辺に影響が出ないように配慮すること。

#### 第12条 起工測量

本工事实施にあたり、起工測量を行い損傷箇所や範囲を確認すること。  
設計図書の精査し、施工計画書に反映させること。

#### 第13条 その他

その他、定めがない事項について疑義が生じた場合は、その都度監督員と協議するものとする。

# 総括情報表

事務所 設計書名 変更回数  適用単価 適用単価地区 単価適用年月日  諸経費体系	0001 建設課 実施設計書 当初 0  1 実施単価 07 砺波地区 0-02.08.15(0)  1 公共		
前払率 諸経費工種 労務費補正 電力区分 施工地域区分 寒冷地区分 緊急工事区分 契約保証区分 現場環境改善費 週休2日工事補正 消費税率 (%)	当 世 代  40 29 橋梁保全工事 01 割増なし 02 臨時低圧電力 11 一般交通影響有り(2) 01 補正なし 00 通常 03 補正なし 00 計上しない 00 計上しない 10	前 世 代	

# 本工事費内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
本工事費									X1000	
道路修繕・橋梁保全工事									Y1802	
橋梁補修工									Y280228	
ひび割れ補修工									Y38022804	
充てん工法									Y4802280401	
ひび割れ補修工（充てん工法） 補修延べ延長 20m以上				式					S5507 0 A=2, B=32.7, C=3.9	
足場	1			構造物					施工 第0-0001号表 Y4802280403	
桁下足場工 ポストテンション桁				式					S6032 0 A=1, B=1, C=1, E=13.35, F=4.4	
断面修復工	1			式					施工 第0-0002号表 Y38022805	

# 本工事費内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
左官工法									Y4802280501	
				式						
断面修復工（左官工法） 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理 有り 修復延べ体積 0.1m3未満	1			構造物					S5511 0 A=1, B=1, C=0.06 施工 第0-0003号表	
表面被覆工									Y38022806	
プライマー塗布									Y4802280602	
				式						
表面含浸工 土木工事標準単価方式	94			m2					SS231 0 A=2, B=1, C=1, D=1, E=1, F=0.21 施工 第0-0004号表	
構造物撤去工									Y280227	
運搬処理工									Y38022715	
殻運搬									Y4802271501	
				式						
ダンプトラック運搬	0.1			m3					S8702 0 A=1, B=5, C=1, D=1 施工 第0-0005号表	

# 本工事費内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
殻処分									Y4802271503	
				式						
*処分費等*									#0044	
コンクリート廃材処理費									TCM96	0
	0.1			m3						
直接工事費										
共通仮設費 (率分)										
				式						
共通仮設費計										
純工事費										
現場管理費										
				式						
現場管理費計										

# 本工事費内訳表

	費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
工事原価						
一般管理費等			式			
工事価格						
消費税等相当額			式			
請負対象工事費						
工事価格計						
消費税等相当額計			式			
請負対象工事費計						

# 施工内訳表

[名称] ひび割れ補修工 (充てん工法)				1	1	1
[規格1] 補修延べ延長 20m以上				[規格2]		
名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考	
土木一般世話役 一般施工		人			R2008	
特殊作業員		人			R2005	
普通作業員		人			R2006	
充てん材	4.68	kg			TD525	
諸雑費		%			#09	
**単位当り**	1	構造物				
A=2 C=3.9	20m以上 1構造物当り充てん材設計量 (kg)		B=32.7	1構造物当り補修延べ延長 (m)		

# 施工内訳表

[名称] 桁下足場工				[規格2]		1	式	当り
[規格1] ポストテンション桁								
名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備	考		
橋梁特殊工		人			R2019			
足場材賃料 (L1)		月			J0003			
足場材賃料 (L2X)		月			J0001			
		式			+00			
諸雑費	1	式			#90			
**単位当り**	1	式						
A=1 C=1 F=4.4	ポストテンション桁 1.1m ≤ H < 1.5m 全幅員 (m)		B=1 E=13.35	両側朝顔 橋長 (m)				

# 施 工 内 訳 表

[名 称] 断面修復工 (左官工法)				1		1	1
[規格1] 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理 有り				[規格2] 修復延べ体積 0.1m3未満			
名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考		
土木一般世話役 一般施工		人			R2008		
特殊作業員		人			R2005		
普通作業員		人			R2006		
断面修復材	0.07	m3			TD710		
諸雑費		%			#09		
**単位当り**	1	構造物					
A=1 C=0.06	鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理 有り 1構造物当り修復延べ体積 (m3)		B=1	0.1m3未満			

# 施工内訳表

[名称] 表面含浸工		[規格1] 土木工事標準単価方式		[規格2]		1	m2	当り
名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備	考		
表面含浸工 (下地処理工) 高所作業車無 時間制約無 昼間	1.00	m2			TL803			
表面含浸工 (含浸材塗布工) 高所作業車無 時間制約無 昼間	1.00	m2			TL812			
表面含浸材料	0.21	kg			TD704			
**単位当り**	1	m2						
A=2 下地処理 C=1 時間的制約無し E=1 kg			B=1 高所作業車 無 D=1 標準 (昼間) F=0.21 m2あたり標準使用量 (ロス率含む)					

# 施工内訳表

[名称] ダンプトラック運搬 [規格1]		[規格2]				100	m3	当り
名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備	考		
ダンプトラック運転 (機-22)		日			S1032			
諸雑費	1	式			#90			
***合計***	100	m3						
**単位当り**	1	m3						
A=1 C=1	コンクリート殻（無筋）、アスファルト殻 DID区間 無し		B=5 D=1	片道運搬距離 (km) 良好				

# 機 労 材 集 計 表

項番	単価 コード	集計 区分	単 価 値	数量累計	単 価 名 称	集 計 区 分 名 称
1	K2545	198			タイヤ損耗費及び修理費	消耗品費
2	M1450	191			ダンプトラック	運搬機械等損料
3	R2005	11			特殊作業員	特殊作業員
4	R2006	12			普通作業員	普通作業員
5	R2008	25			土木一般世話役	一般土木世話役
6	R2015	19			一般運転手	一般運転手
7	R2019	23			橋梁特殊工	橋梁工世話役
8	T3002	66			軽油	軽油
9	TCM96	189		0.1	コンクリート廃材処理費	投棄料
10	TD525	198		4.68	充てん材	消耗品費
11	TD704	600		19.74	表面含浸材料	橋梁・河川・港湾用材
12	TD710	755		0.07	断面修復材	左官材
13	TL803	200		94	表面含浸工（下地処理工）	
14	TL812	200		94	表面含浸工（含浸材塗布工）	
15	WXXXX	966				



## 橋梁本体補修工

### 1. 上部工補修工

#### (1) ひびわれ補修工 (充填工法(有機系))

$$L = 32.70 = 32.70 \text{ m}$$

材料数量 : 0.120/m

$$Q = 32.700 \times 0.120 = 3.924 = 3.924 \text{ t}$$

#### (2) 断面修復工 (左官工法(ポリマーセメントモルタル)) ※鉄筋防錆処理あり

A= 上部工補修図より

$$= 0.950 = 0.95 \text{ m}^2$$

平均はつり厚30mmと想定

$$V = 0.950 \times 0.030 = 0.029 = 0.029 \text{ m}^3$$

#### (3) はつり工 ※左官工法(鉄筋防錆処理あり)範囲

$$A = \text{断面修復面積より} = 0.950 = 0.95 \text{ m}^2$$

平均はつり厚30mmと想定

$$V = 0.950 \times 0.030 = 0.029 = 0.029 \text{ m}^3$$

#### (4) 表面含浸工 (シラン系含浸材)

$$\begin{array}{l} \text{A1~P1} \\ \text{a1} = 4.400 \times 2.000 + 0.300 \times 2.000 \times \begin{array}{l} \text{上下流} \\ 2 \end{array} = 10.000 \end{array}$$

$$\begin{array}{l} \text{P1~p2} \\ \text{a2} = ( 0.900 \times 2 + 0.250 \times 4 + 0.150 \times 6 \\ + 0.335 \times 2 + 0.300 \times 2 ) \times 9.350 = 46.470 \end{array}$$

$$\text{a3} = 0.400 \times 3 \times 8.450 = 10.140$$

$$\begin{array}{l} \text{P2~A2} \\ \text{a4} = 4.400 \times 2.000 + 0.300 \times 2.000 \times \begin{array}{l} \text{上下流} \\ 2 \end{array} = 10.000 \end{array}$$

ガードレール接合部控除

$$\text{a5} = 0.350 \times 0.400 \times 7 \times 2 = 1.960$$

$$\begin{array}{l} \text{第1径間} \quad \text{第2径間} \quad \text{第3径間} \quad \text{控除} \\ \text{A} = 10.000 + 46.470 + 10.140 + 10.000 - 1.960 = 74.65 \text{ m}^2 \end{array}$$

## 2. 下部工補修工

(1) 断面修復工 (左官工法(ポリマーセメントモルタル)) ※鉄筋防錆処理あり

A= 下部工補修図より

$$= 1.110 \qquad = 1.11 \text{ m}^2$$

平均はつり厚30mmと想定

$$V= 1.110 \times 0.030 = 0.033 \qquad = 0.03 \text{ m}^3$$

(2) はつり工 ※左官工法(鉄筋防錆処理あり)範囲

$$A= \text{断面修復面積より} = 1.110 \qquad = 1.11 \text{ m}^2$$

平均はつり厚30mmと想定

$$V= 1.110 \times 0.030 = 0.033 \qquad = 0.03 \text{ m}^3$$

(3) 表面含浸工 (シラン系含浸材)

A1橋台

正面

$$A1= 0.300 \times 4.400 = 1.320$$

P1橋脚

A1側正面

$$a1= 0.550 \times 4.400 = 2.420$$

P2側正面

$$a2= 0.280 \times 4.400 = 1.232$$

上流側側面

$$a3= 0.300 \times 0.450 + 0.550 \times 0.200 = 0.245$$

下流側側面

$$a4= 0.300 \times 0.450 + 0.550 \times 0.200 = 0.245$$

上面

$$a5= 0.450 \times ( 0.300 \times 2 + 1.300 \times 2 ) = 1.440$$

下面

$$a6= 0.650 \times 4.400 - 0.150 \times 0.150 \times \pi \times 3 \\ = 2.648$$

$$A2= 2.420 + 1.232 + 0.245 + 0.245 + 1.440 + 2.648 = 8.230$$



項目	計算式	数量
上部工 ひびわれ充填工 (1.00mm≦W)	$  \begin{aligned}  L &= 4.700 + 3.700 + 0.400 + 1.000 + 1.700 + 1.700 + 1.800 \\  &\quad (1) \quad (2) \quad (3) \quad (4) \quad (5) \quad (6) \quad (7) \\  &+ 3.300 + 6.700 + 4.400 + 3.300 = \underline{32.70} \text{ m} \\  &\quad (8) \quad (9) \quad (10) \quad (11)  \end{aligned}  $	32.70 m
断面修復工(左官工)	$  \begin{aligned}  A &= ( 1.500 \times 0.120 ) + ( 1.030 \times 0.130 ) \\  &\quad D1 \quad D2 \\  &+ ( 0.270 \times 0.100 ) + ( 0.100 \times 0.100 ) \\  &\quad D3 \quad D4 \\  &+ ( 0.190 \times 0.190 ) + ( 0.130 \times 0.360 ) \\  &\quad D5 \quad D6 \\  &+ ( 0.390 \times 0.150 ) + ( 0.020 \times 0.150 ) \\  &\quad D7 \quad D8 \\  &+ ( 0.020 \times 0.150 ) + ( 0.020 \times 0.150 ) \\  &\quad D9 \quad D10 \\  &+ ( 2.000 \times 0.130 ) + ( 0.130 \times 0.340 ) \\  &\quad D11 \quad D12 \\  &+ ( 0.390 \times 0.150 ) + ( 0.420 \times 0.210 ) \\  &\quad D13 \quad D14 \\  &= \underline{0.95} \text{ m}^2  \end{aligned}  $	0.95 m <sup>2</sup>
下部工 断面修復工(左官工)	$  \begin{aligned}  A &= ( 0.110 \times 0.190 ) + ( 0.160 \times 0.320 ) \\  &\quad D1 \quad D2 \\  &+ ( 0.160 \times 0.320 ) + ( 0.140 \times 0.360 ) \\  &\quad D3 \quad D4 \\  &+ ( 0.140 \times 0.480 ) + ( 0.537 \quad ) \\  &\quad D5 \quad D6 \\  &+ ( 0.370 \times 0.170 ) + ( 0.140 \times 0.480 ) \\  &\quad D7 \quad D8 \\  &+ ( 0.140 \times 0.480 ) + ( 0.140 \times 0.480 ) \\  &\quad D9 \quad D10 \\  &+ ( 0.150 \times 0.100 ) + ( 0.400 \times 0.100 ) \\  &\quad D11 \quad D12 \\  &+ ( 0.150 \times 0.100 ) \\  &\quad D13 \\  &= \underline{1.11} \text{ m}^2  \end{aligned}  $	1.11 m <sup>2</sup>

## 仮設工

### 1. 補修用足場工

(1) 吊足場 (桁高 $h < 1.5\text{m}$ )

$$A = 6.600 \times 9.500 = 62.700 = 62.70 \text{ m}^2$$

(2) 朝顔 (両側 シート張防護)

$$A = 4.400 \times 9.500 = 41.800 = 41.80 \text{ m}^2$$

字名・地籍番地・用途地域につきましては  
参考資料として御利用下さい。



不動産やリフォームはおまかせください！  
リアルプランニング株式会社 Tel.0763-55-6554

108	203
118	223
130	251

# 位置図 都建第74号

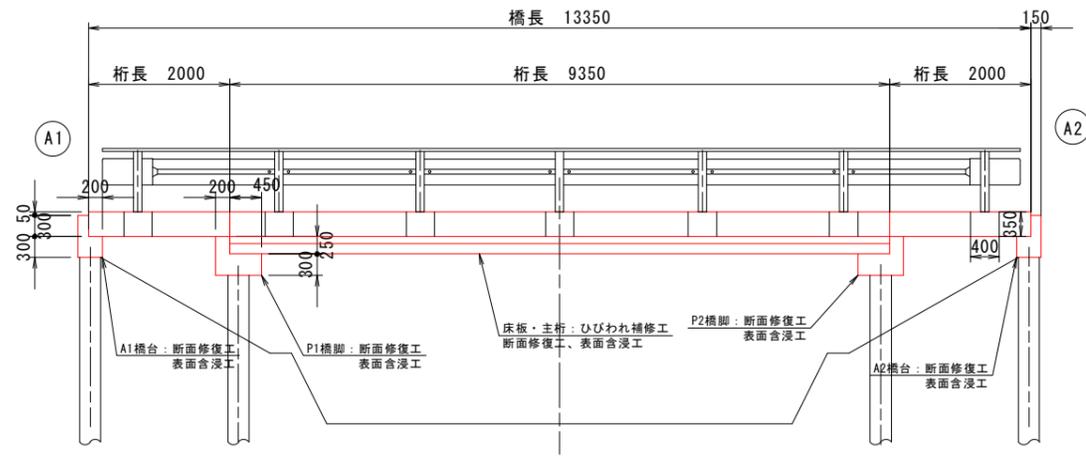
【小矢部市】下後返、水島



1:3000 100 200m

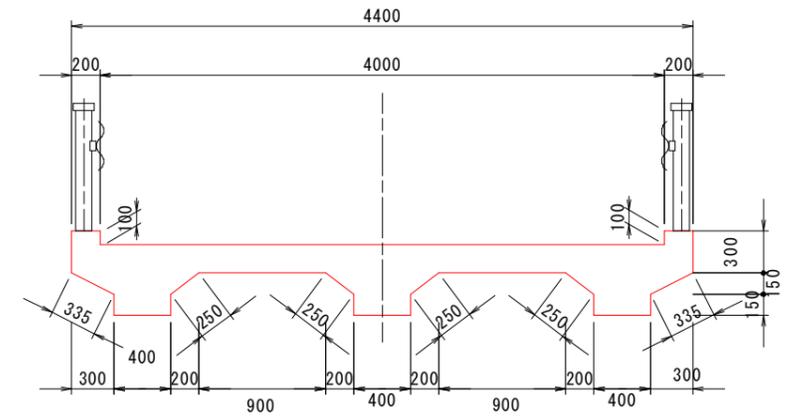
宮川32号橋 補修一般図

側面図 A1 S=1/50  
A3 S=1/100

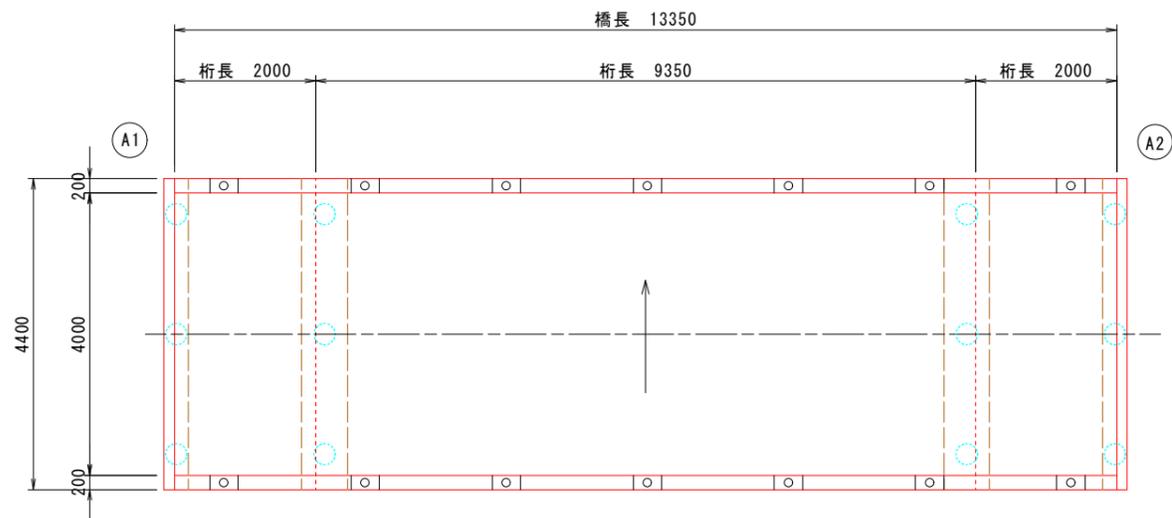


断面図 A1 S=1/25  
A3 S=1/50

(A1~P1、P2~A2)



平面図 A1 S=1/50  
A3 S=1/100

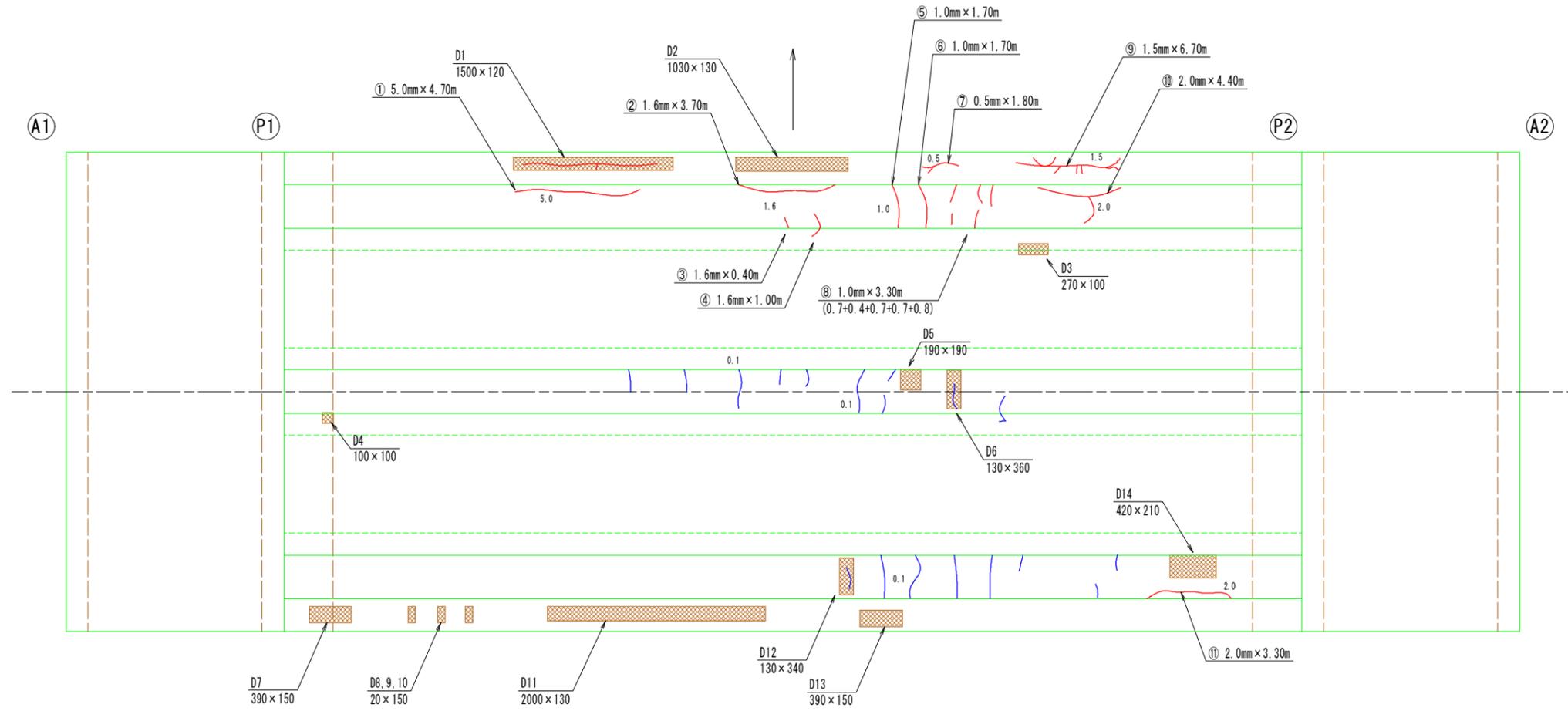
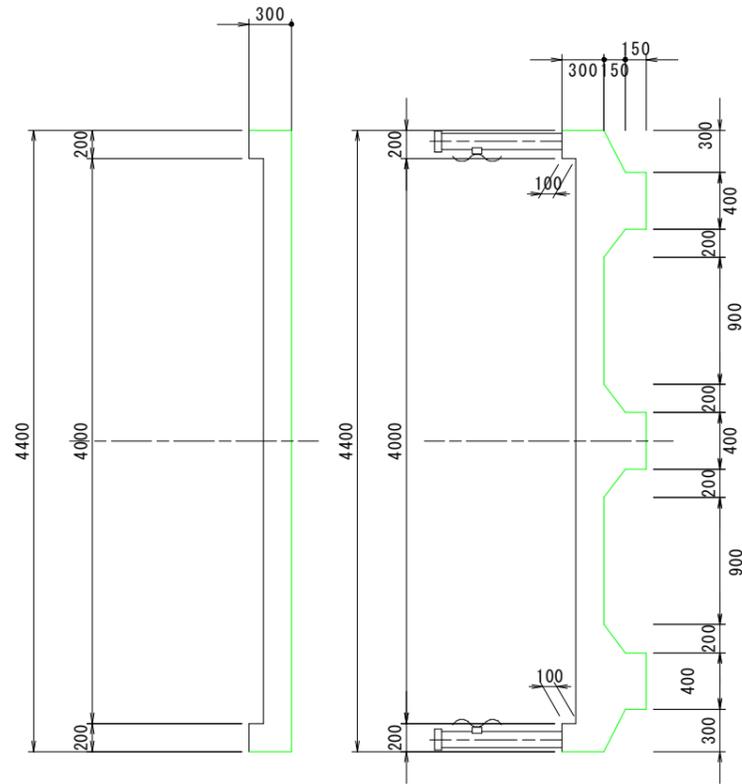


補修工法一覧表

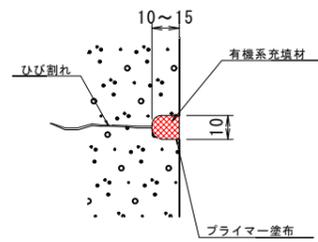
補修工法	詳細事項	部材
ひびわれ補修工	ひびわれ充填工 (有機系)	上部工 (主桁)
断面修復工	左官工 (無機系)	上部工 (床版)、下部工 (A1橋台、P1橋脚、A2橋脚) 付属物 (地覆)
表面保護工	表面含浸工	上部工 (床版)、下部工 (A1橋台、P1橋脚、A2橋脚) 付属物 (地覆)

- 注記 1. 施工前に必ず現地寸法を確認し、補修範囲及び数量調査を協議のうえ施工すること。  
2. 図中詳細寸法は現地検測のうえ決定すること。  
3. 施工時は、可能な限り車両通行が可能となる交通規制計画を立案すること。

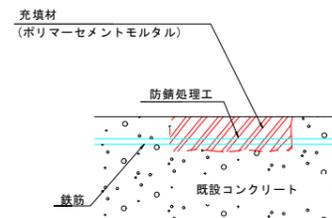
工事名	市道上後遺下一般宮川32号橋補修工事		
場所	小矢部市 水島 地内		
図面名	宮川32号橋 補修一般図		
作成年月	令和元年11月		
縮尺	図示	図面番号	1 / 4
事業者名	小矢部市役所		



ひび割れ充填工 (1.0 ≤ t)  
(有機系充填)



断面修復工



ひびわれ充填工 (有機系) 数量内訳表

番号	部材名	幅 (mm)	延長 (mm)
1	主桁	5.0	4700
2	主桁	1.6	3700
3	主桁	1.6	400
4	主桁	1.6	1000
5	主桁	1.0	1700
6	主桁	1.0	1700
7	主桁	0.5	1800
8	主桁	1.0	3300
9	主桁	1.5	6700
10	主桁	2.0	4400
11	主桁	2.0	3300
			32700

断面修復工 (左官工法 (鉄筋防錆処理あり)) 数量内訳表

番号	部材名	横幅 (mm)	縦幅 (mm)	面積 (m <sup>2</sup> )
D1	主桁	1500	120	0.1800
D2	主桁	1030	130	0.1334
D3	主桁	270	100	0.0270
D4	主桁	100	100	0.0100
D5	主桁	190	190	0.0361
D6	主桁	130	360	0.0468
D7	主桁	390	150	0.0585
D8	主桁	20	150	0.0030
D9	主桁	20	150	0.0030
D10	主桁	20	150	0.0030
D11	主桁	2000	130	0.0030
D12	主桁	130	340	0.0260
D13	主桁	390	150	0.0585
D14	主桁	420	210	0.0882
				0.1600

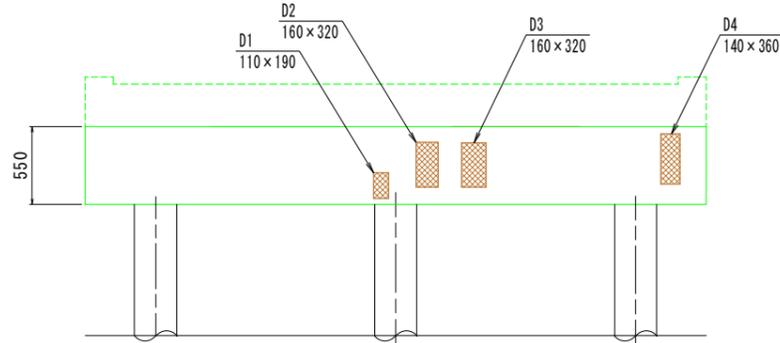
補修工法 凡例

- ひびわれ充填工 (有機系)
- 断面修復工 (左官工法 (鉄筋防錆処理あり))
- 表面含浸工

工事名	市道土後瀬下一線宮川32号橋補修工事		
場所	小矢部市 水島 地内		
図面名	宮川32号橋 上部工補修図		
作成年月	令和元年11月		
縮尺	A1: 1/25 A3: 1/50	図面番号	2 / 4
事業者名	小矢部市役所		

P1 橋脚

側面図 (A1側)



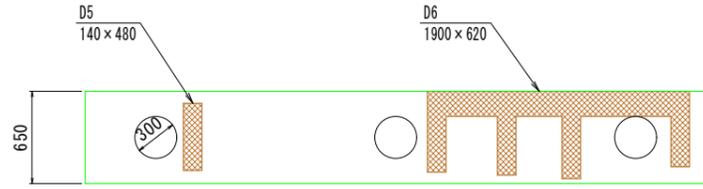
流水方向

平面図



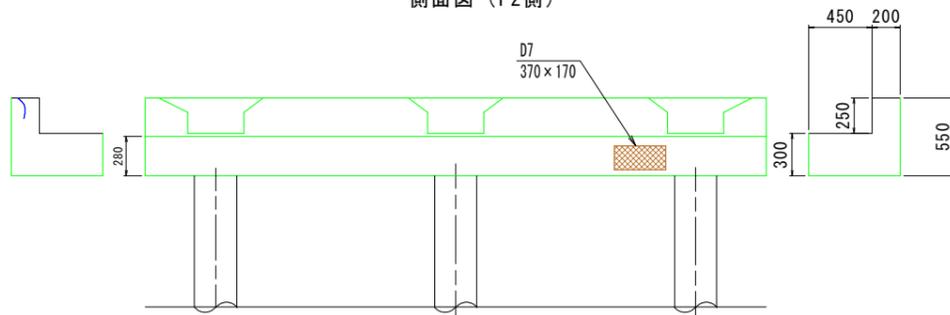
流水方向

平面図 (下から)



流水方向

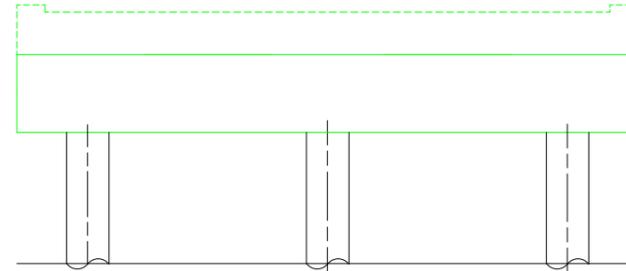
側面図 (P2側)



流水方向

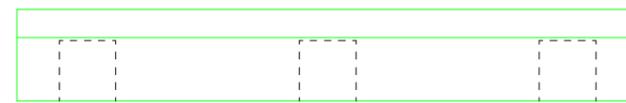
P2 橋脚

側面図 (A2側)



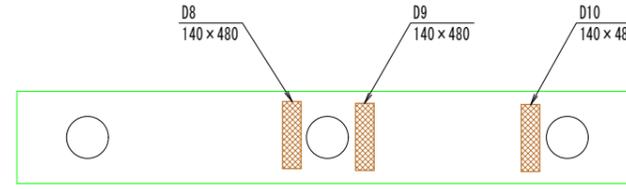
流水方向

平面図



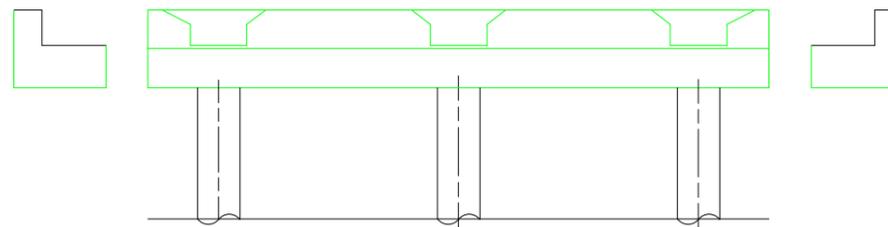
流水方向

平面図 (下から)



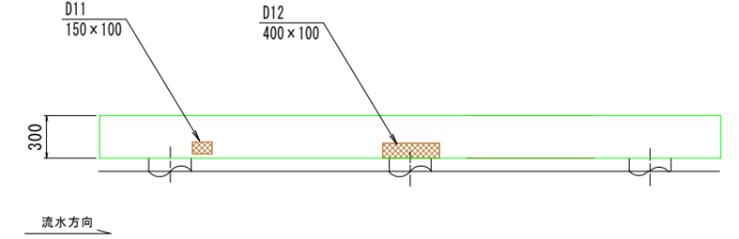
流水方向

側面図 (P1側)



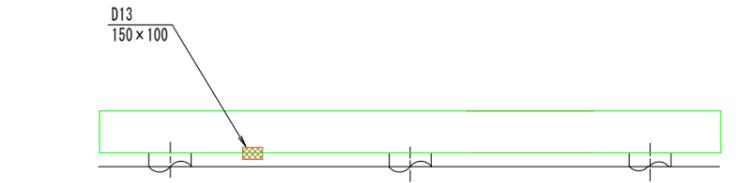
流水方向

A1 橋台



流水方向

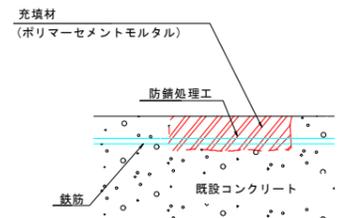
A2 橋台



流水方向

番号	部材名	横幅 (mm)	縦幅 (mm)	面積 (m2)
D1	躯体	110	190	0.0209
D2	躯体	160	320	0.0512
D3	躯体	160	320	0.0512
D4	躯体	140	360	0.0504
D5	躯体	140	480	0.0672
D6	躯体	1900	620	0.5368
D7	躯体	370	170	0.0629
D8	躯体	140	480	0.0672
D9	躯体	140	480	0.0672
D10	躯体	140	480	0.0672
D11	躯体	150	100	0.0150
D12	躯体	400	100	0.0400
D13	躯体	150	100	0.0150
				1.1122

断面修復工

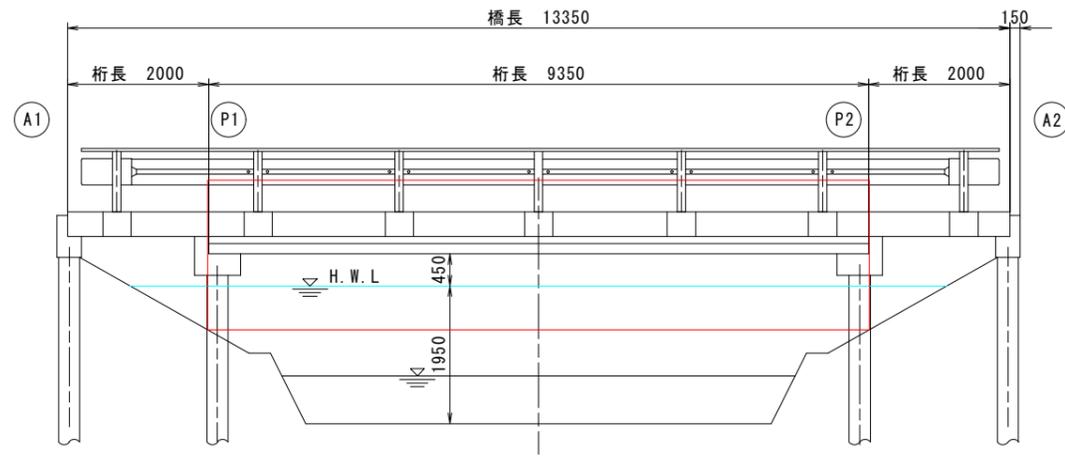


補修工法 凡例

- : ひびわれ充填工 (有機系)
- : 断面修復工 (左官工法(鉄筋防錆処理あり))
- : 表面含浸工

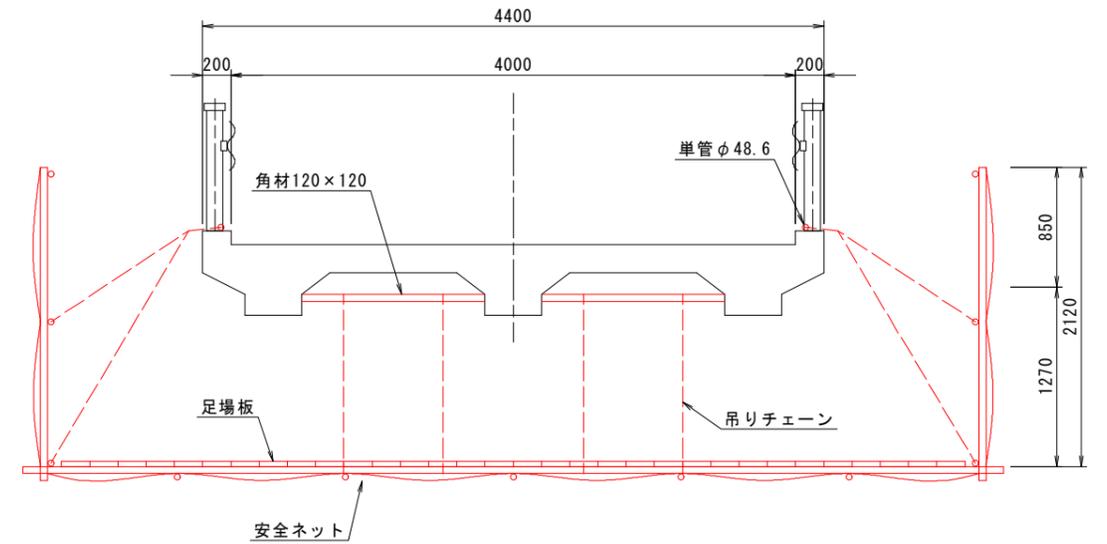
工事名	市道後遺下一線宮川32号橋補修工事		
場所	小矢部市 水島 地内		
図面名	宮川32号橋 下部工補修図		
作成年月	令和元年11月		
縮尺	A1: 1/25 A3: 1/50	図面番号	3 / 4
事業者名	小矢部市役所		

側面図 A1 S=1/50  
A3 S=1/100

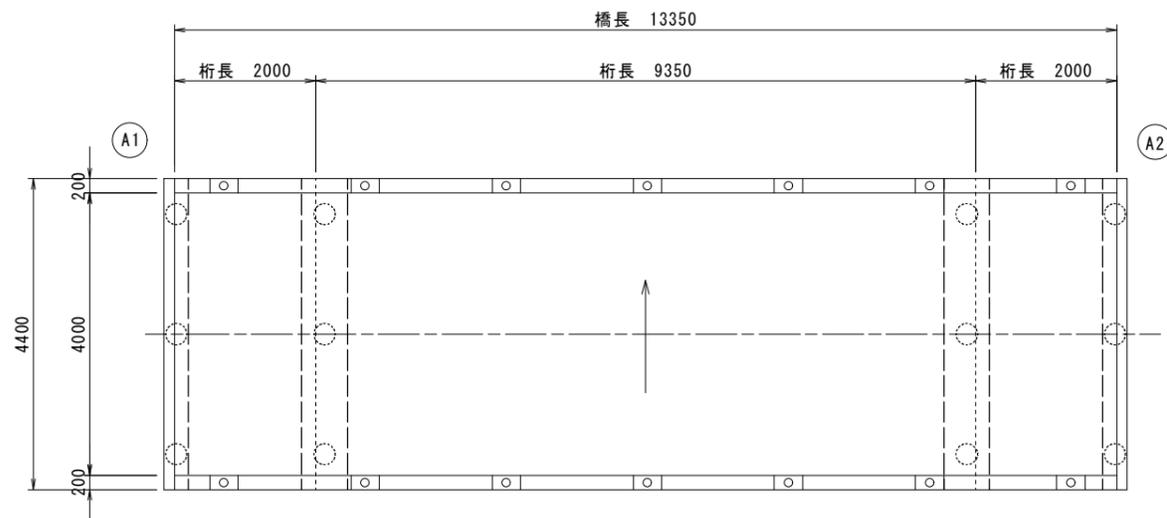


断面図 A1 S=1/25  
A3 S=1/50

(A1~P1、P2~A2)



平面図 A1 S=1/50  
A3 S=1/100



補修工法一覧表

補修工法	詳細事項	部材
ひびわれ補修工	ひびわれ充填工 (有機系)	上部工 (主桁)
断面修復工	左官工 (無機系)	上部工 (床版)、下部工 (A1橋台、P1橋脚、A2橋脚)
		付属物 (地覆)
表面保護工	表面含浸工	上部工 (床版)、下部工 (A1橋台、P1橋脚、A2橋脚)
		付属物 (地覆)

- 注記 1. 施工前に必ず現地寸法を確認し、補修範囲及び数量調査を協議のうえ施工すること。  
 2. 図中詳細寸法は現地検測のうえ決定すること。  
 3. 施工時は、可能な限り車両通行が可能となる交通規制計画を立案すること。

工事名	市道後遺下一線宮川32号橋補修工事		
場所	小矢部市 水島 地内		
図面名	宮川32号橋 足場工 (参考)		
作成年月	令和元年11月		
縮尺	図示	図面番号	4 / 4
事業者名	小矢部市役所		